

R4.10.15～16 東京湾大感謝祭 2022

(当然のことだが) 東京湾大感謝祭は海の環境改善を目指した研究発表が主たる目的であった。集まった団体や会社(主に研究職や部署であった)は海の環境改善のためのそれぞれの取り組みを報告しており、来場者も研究職の方が中心であったが、各会社の他部署の方が家族連れて見に来られていた事もあった。また、1日目は横浜市内の小学校児童のSDGs関連の発表が、2日目は子供たちのミュージカルの公演があり、出場や見学の子供や家族、お友達関係が最後まで遊んでいる等、一般来場者も多く来られていた。

■当会の展示について

- ① 東京湾大感謝祭が海の展示を主としたことから、苫浜の活動を主とした物とした。
- ② 初回参加としてはおおむね良好に終えられたと感じている。一般の来訪者からは活動への興味、専門家は今後への期待の声聞かれた。
- ③ 展示に割り振られた場所も良好であったため(ステージの目の前)、関心を持つ来訪者を取り逃がさず済んだ。
- ④ 看板で団体名を示すことにより、活動場所や内容を示す事ができた。千葉の方や海岸漂着物、マイクロプラスチック等に関心のある方々の足を止めることが出来た。
- ⑤ 豊砂ビーチワークスからの資料提供により、横並びの地続きであっても(公の海岸作りの差による)環境やごみの内容、活動内容の違いを提示することになり、展示自体のボリュームアップや来場者とのコミュニケーションのきっかけとなった。説明を行う上でも大変有効であったと感じる。
- ⑥ 展示内容は活動内容の写真展示、ゴミの収集結果報告、収集したゴミからの作品展示となった。データ資料は収集したゴミの内容報告であった。その他の作品展示では豊砂と苫浜の作風の違いも環境の差を伝える材料となった。

■感想と総括

- ① 展示については(1回ではあったが)展示前にスタッフによる専用MTと共同作業を開催した上で行うことが出来た。
- ② 島田代表による官民連携PTでのこれまでの取り組みによる効果が大きく、会場内での会の認知も広く見られた。一般団体からの登壇者は全て団体として活発に活動展開している所からばかりだった事からも、同様の活動を行っている方々からの当会への注目度も強く感じられた。
- ③ 展示内容をまとめていて第一に感じたことは提示できるデータの少なさであった。
- ④ 習志野の海を守る会は定期的な清掃活動、その他諸活動の報告は行えたが、実際これまで諸活動の詳細な記録付けやデータ採取はほぼ行えておらず、具体的な行動指針や目標については示しきれなかったのではないかと→現状では「あれもこれも」の印象もしくは「ただゴミを拾っている市民団体」と思われる事になりやすい。(仮に助成金を申請してもそれしか活動実績が無ければ今後審査に通らなくなる)
- ⑤ 次回展示の際には、感謝祭の趣旨が同一の目的〈海の環境改善〉であること、専門職の集まりであることからより具体的に展開した活動実績からの考察に言及する事が求められる事と感じた。
- ⑥ 他団体で貝殻アートを行っており盛況であったが、フィールド内での採取では材料が足らず他所から仕

入れた話も聞いた。来年もし同様の形式なら、マイクロプラのモザイクアートを行う事は有効と思われる(こればかりは全て定例活動箇所での調達が可能。)

■考察

1) 法人事業「習志野の海を守る会」への提案

*→目標の再確認→清掃を継続することによる「環境の改善(海洋廃棄物問題の改善)」

→目的となるのは「干潟の再生～海環境改善」「生き物の再生」「住民が楽しめる環境」の実現で
よいか?

→ボランティア団体でなく NPO 法人であることを十分考えていくことも大切。

**課題:海ゴミは広範囲から来る物で容易な解決は困難なため実態を把握し、報告し、改善を提案し
ていく必要がある。海洋に限らずゴミ問題の解決にさざなみ単独で取り組み、解決することは困難
であり広く行政・企業・民間団体・市民との連携が必須となる。

- ① 活動範囲の中から定点観察を行う箇所を選び、毎月様子を撮影し SNS で報告する。新旧の漂着物
や 漂着物の傾向、堆積の様子、痕跡からの人の出入りなどが報告できるか?(清掃活動の実績だ
けでないデータが必要。私たちは単なる清掃ボランティア団体ではなく環境保護・改善のための活
動を行っている事を示すことは必須。)→定例活動担当者と連携で行う。調査は当番制?担当制?
- ② 東京湾大感謝祭参加により、地域の民間団体は単独での活動だけでは活動範囲が狭くなること、
行政等の協力が得づらいことが感じられた。東京湾北部の千葉県側の団体は若く、連携関係の形成
には好タイミングか?県への提案も団体であれば効力がある。

例)

- 県の協議会への参加→千葉市側の団体との連携関係から連絡会議を設け、定期的に関
催することが行政へのアピールに繋がるものと思われる。
- 谷津干潟観察センター運営団体とも名刺交換を行っているので関係形成にも良いタ
イミングではある。
- 行えるようであれば学校などでの環境教育への参加にも効果があると思われる。

2) 定例清掃活動に関する提案(提案が飲まれた場合の具体的方法については定例活動担当に一任)

●エリアを区切って清掃活動を行う日を作る(もしくは調査協力要員を募集)ことはどうか?

(担当エリア分けについては一度参加者から反対意見も出ている為、あくまでも賛同者のみという形
をとるとした上で)

例えば 10メートルずつ防波堤に印をつけ活動範囲を設ける。活動箇所を分けることで安全を確
保することの一助となる。また現在よりも細かくエリアを設けることで場所ごとの状況や傾向を
具体的に理解し、他者に示すことが出来る。(県内で木更津・旭で行われた調査を参考に軽微な形
で試行してはどうか?)

●島田代表登壇時に「初めて活動する場合の参加の仕方がわからない」という質問がなされた事、また
当会ブースに来られた方(会場ボランティアの学生さん)から「こういう活動をやりたいと思うが、い
つでも誰でも OK と書いてあったから参加した会でスタッフと常連さんで仲よしグループの様な雰
囲気が出来上がっていてフラッと行くにはハードルが高いと感じ、継続できなかった」という意見が
あった事、反対に当会内部からは定期的に来られる参加者とのコミュニケーションについて意見が出
されている事等から、真に誰でも気軽に参加しやすい雰囲気づくりの見直し(現在の我々はどうか?)。

■その他

① ハゼ釣り大会と釣果の調査

→官民連携 PT 古川先生によると、コンクリート護岸の普及からハゼの生息域の現象が顕著とのこと。
習志野付近は谷津干潟付近、船橋漁港付近を主としたハゼ釣りが出来る場所があり、希少な場所であるとのコメントを頂いている。地域交流事業の一環として行えるメリットに加え、釣果報告による PT との連携関係の形成も可能と思われる。広く我々のエリアで呼掛けても良いか？

② 次年度年間事業計画（習志野の海を守る会、房総再生プロジェクト、その他）の作成（いつ頃何をするかを全体に把握出来れば、諸々の当番制作成、各事業のお手伝いや手の足りないところの穴埋めに気軽に参加できるか？）。

【文言整理】

問題：果たしたい目的や目標とのギャップ（差や原因）

課題：ギャップを埋めるためのアクション（行為）

対策：行動するための具体的な措置

目的：最終的に実現したいもの

目標：最終的な到達点となる目的を達成するための中間地点

■名刺交換（順不同）

- ・ 木村 尚 〈NPO法人海辺つくり研究会理事・局長〉*日テレ「鉄腕 DASH」DASH 海岸監修及び出演
- ・ 佐々木 淳 〈東京大学 志ある卓越 大学院新領域創世科学研究科社会文化環境学専攻教授〉
- ・ 岡田 知也 〈国土交通省 国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部 海洋環境研究室長〉
- ・ 竹内 聖一 〈NPO 法人館山海の鑑定団理事長〉
- ・ 川名 まひろ 〈NPO 法人館山海の鑑定団事務局スタッフ〉
- ・ 大境 順子 〈ガールスカウト千葉県連盟理事〉
- ・ 山下 嘉子
〈JCOM プロダクション本部映像制作第一部制作推進グループ広報番組推進アシスタントマネージャー〉
- ・ 塚本 和範
〈生態システム実践研究会本部役員・有限会社日だまり生態系生態システムプログラム農法アドバイザー〉
- ・ 松井 敬司
〈一般財団法人セブンイレブン記念財団 事務局次長・東京湾再生官民連携フォーラム企画運営委員長〉
- ・ 柚原 武
〈東北大学大学院 生命科学研究科水圏生態分研究員・博士（理学）生物分類技能検定二級（水圏生物分野）〉
- ・ 古川 恵太
〈海辺つくり研究会理事長・東京海洋大学産学・地域連携推進機構客員教授、徳島大学環境防災研究センター客員教授・東アジア海域環境管理パートナーシップ技術会合議長・東京湾官民フォーラム モニタリング PT 長・笹川平和財団海洋政策研究所特別研究員（非常勤）〉
- ・ 井上 楓 〈東京都港湾局港湾整備部計画課環境計画担当〉
- ・ 福井 歩 〈WALK PHOTOGRAPHER〉

*この他、名刺を持たずに会場に来られた環境省職員の方、官公庁の依頼を受けて様々な環境調査を行う会社に勤務されている方(海岸担当なので海ゴミにも関心の深い方)とお話させて頂き、激励を頂きました。

以上